

人間社会学部

試験問題冊子

(B日程 2月24日)

国語

注 意

- ① 試験監督者の指示があるまで、問題冊子を開かないこと。
- ② 問題冊子に落丁、乱丁があった場合は、試験監督者に申し出ること。
- ③ 試験監督者が試験開始の指示をしたら、ただちに解答用紙の所定欄に、受験番号を記入し、マークすること。
- ④ 解答は全て解答用紙に記入すること。
- ⑤ マーク式解答欄および裏面の記述式解答欄の指定された箇所以外は使用しないこと。
- ⑥ 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

注意 解答はすべて各問の下端の 内に指示された解答欄にマークまたは記入すること。なお、解答欄のうち、この試験で使うのは、マーク式解答欄の 1 14、記述式解答欄の A J のみである。

問題一 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

2019年5月8日、滋賀県大津市の交差点で信号待ちをしていた保育園児の列に車が突っ込み、2人が死亡する事故が発生しました。その日のうちに保育園が開いた記者会見で、泣き崩れる園長に一部記者が、事故の責任の一端が保育園側にあるかのような質問をしたことで、ネットを中心にその無神経さが批判を浴びたのは記憶に新しいところです。

これはマスコミがその取材手法から記者会見での質問内容まで、オープンに評価されるようになった典型例です。マスコミの中にはいまだにネットを下に見る人が多く、「はいはい、またネットの連中がマスコミ叩きやってますね」くらいに軽く考えているのかもしれませんが、果たしてそれでいいのでしょうか？

マスコミの自意識とは関係なく、もはや誰もマスコミを上には見ていません。ジャーナリストの佐々木俊尚氏が「マスコミも晒され評価される時代」と論じたように、すでにマスコミは特別に正しいとされるような存在ではなくなっています。そうなれば、マスコミによる報道も昔のままで良いはずがあるまい、と強く思うのです。

例えば、「マスコミの使命は権力と戦うことだ」という意見をよく聞きます。実際にニュース番組をやっているとそうした趣旨で論されることもあります。

なるほど、国が進むべき道を誤りそうなとき、マスコミがケイシヨウ¹を鳴らすべきだという意味では完全に同意します。ならば、報道に携わる人間は政策についてよく学び、国民への影響、メリット・デメリットを是々非々で評価すべきなのではないでしょうか。ところが、マスコミの中では多くの場合、「是々非々≠権力寄り」と評価されています。実際に私個人や番組も、少しでも政権について肯定的な考え方を伝えると、そうした評価をされてきました。なぜ是々非々がゲイゴウ²なのでしょう？

私は逆に聞きたくなるのです。

マスコミが考えるところの「国の進むべき道」とは、「権力の逆方向」に固定されているのでしょうか？ 権力A（例えば政権）がBに変わったら、マスコミもそれに合わせて「権力Bの逆方向」へと主張を変えるのでしょうか？ と。権力が交代した瞬間に、マスコミの主張が大きく転換してしまうような変節を良しとするのでしょうか？ そんなマスコミが建前で考えたような「反権力」がいつも正しいことのように伝えられる——それっておかしくないですか？

「マスコミの使命は権力と戦うことだ」という言葉は本来、民主主義を守るために必要な倫理観によって調査報道を行うジャーナリズムの精神を体現したものと、私は理解しています。ところが、それがいつの間にか「権力と戦う自分たちの物語」にすり替わっているように見えてなりません。私は、この「権力と戦う」という言葉が本来の精神を失ってそれ自体が目的化し、マスコミ報道から「是々非々」という姿勢を奪い、自らを

闘士に据えた陶酔³の物語に引きずり込んでいくようにも見えてしまうのです。周りから見れば、もはやマスクミは特別な存在ではないのに。

一般の視聴者がSNSなどを通じて、時には専門家も交えながら活発に政策論を交わすこの時代にあつて、遠い目をしながら「マスクミの使命は権力と戦うこと……なんだよね……」と具体性なく言われると、気恥ずかしさすら覚えてしまいます（このことについては後でまた触れます）。

マスクミは自分たちを物語の主人公に据えず、国民、すなわち読者、視聴者の生活を豊かにするというあるべき姿へと回帰すべきだと思います。根本に立ち返って、自分たちの価値観や守るべきものを再構築すべきなのではないか？ そんな思いから、本書を書き始めました。

「マスクミの使命は権力と戦う」以外にも、本書では現場での取材をもとに、いわゆる報道的建前に縛られた通り一遍のことは書かないように心がけました。沖縄の基地問題、原発事故と福島⁴のフッコウ、日本経済、自衛隊等々について、ある種のマスクミ的な「模範解答」というものがあります。「沖縄の民意は圧倒的に基地反対」などはその代表かもしれません。「防衛力を増強することは戦争につながる」というのを「模範解答」としているメディアもあります。

しかし、その「模範解答」に含まれている「不正確さ」に受け手は敏感になっているのです。最初¹に結論ありき、「模範解答」ありきで報じているのではないかと。

今の時代、読者、視聴者の生活を豊かにするためにマスクミが報道を通じて提供すべきは、「a」だと思います。すなわち「根拠を示す」報道、「一次情報を必要以上に加工しない」報道、「誰の主張かクリアな」報道……一言で言えば、「透明性の高い報道」によって、視聴者や読者が純粹にニュースについて考えることが出来ます。新聞が記事本文とかけ離れた見出しを作ったり、テレビがVTRやBGMにおいて実態を無視した過剰な演出をすることに、視聴者・読者はうんざりしていると感じます。

いずれアメリカのように、放送から公平中立基準を全面⁵テッパイすべき、という議論が起ころうこともあるかもしれませんが、まず今マスクミに求められているのは、どう見ても中立と言いつても難しい報道をしながら「100%中立デス！」という実現不可能な看板を掲げ続けるより、中立的バランスを当然意識しながら「透明性の高い報道」を行う、という姿勢ではないでしょうか。

特に中立が求められる選挙報道においても、「放送の長さ」や「関係者全員に同じ質問を投げかけないといけない」とか、とかく形から入ろうとしてしまいます。放送を作る側もその「形」から外れることだけを極端に恐れ、たとえば他愛のないトーク番組の中で政党名が出るだけでパニックになったりします。しかしながら、そうした**b**が実は自分たちの首を絞めているという鋭い指摘が放送業界の身内からも出てきているのです。

BPO（放送倫理・番組向上機構）の意見書「2016年の選挙をめぐるテレビ放送についての意見」では次のように述べられています。

「テレビ放送の選挙に関する報道と評論に求められているのは『量的公平』ではなく、政策の内容や問題点など有権者の選択に必要な情報を伝えるために、取材で知り得た事実を偏りなく報道し、明確な論拠に基づく評論をするという『c』だ」

報道の根本の精神は論点を明らかにして議論に資するものにし、その結果として健全な民主主義の発展に資するものであることです。この本では、様々なテーマについて、私が取材した内容を交えながら、私なりのニュースの見方をまとめました。いずれもこの8年、自分自身で現場に向かい、現地の声を聞いたことがベースになっています。

当然、私の至った結論と異なる意見の人もいるでしょう。人それぞれで意見が異なるのは当然のことです。ただ、各テーマについて「私、飯田浩司個人の論考」と「そこに至った根拠（一次情報・取材体験など）の出処」については可能な限り明記したつもりです。私も放送局の人間なので、中立という目標を捨てるつもりは毛頭ありません。しかしながら、「透明性」をより重視してこの本を書きました。特に取材を通じた論考というのは、取材対象からの影響を強く受けます。そのために取材対象の幅を広げることが大事なわけですが、だからこそ「何（誰）を取材してその考え方に至ったのか」を可能な範囲ではっきりさせることが透明性を保つために必要なのだらうと思うわけです。

さらに言えば今後、取材や議論を通じて私の考えが変わることがあるかもしれません。実際、本書の中には、私の意見が変わった過程も書いています。意見が変わると「ブレている」と批判されそうですが、私はあまりそう思いません。意見を変えるという選択肢を放棄すれば、議論は論破だけが目的となって、意味を失ってしまうでしょう。だから意見が変わったのなら、隠さず明言する。それも含めての透明性なのだろうと思っています。

（飯田浩司『反権力』は正義ですかーラジオニュースの現場から）

問1 傍線部1、2、4、5のカタカナを漢字に直して、傍線部3の漢字のよみをひらがなで、それぞれ記述式解答欄に記入しなさい。

1 A 2 B 3 C 4 D 5 E

問2 傍線部ア「権力と戦うこと」の例として筆者の考えに最も合致するものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

1

- ① 交通事故の責任の一端を保育園側に問うこと
- ② 政権交代に機敏に対応して常に「権力」の逆方向を志向すること
- ③ 民主主義を守り、取材方法や記者会見での質問内容をオープンにすること
- ④ 民主主義を守るために必要な倫理観を持って是々非々で報道を行うこと

問3 傍線部イ「最初に結論ありき、『模範解答』ありき」の例として最も適当でないものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

2

- ① 防衛力を増強することは戦争につながると主張すること
- ② 透明性の高い報道によって、視聴者が純粋にニュースについて考える風潮を作ること

- ③ 選挙報道では、関係者全員に同じ質問を投げかけること
- ④ 沖縄の民意は圧倒的に基地反対であると前提して報道を行うこと

問4 空欄 a に当てはまる語句として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

3

- ① 考えるための材料
- ② 揺るぎない真実
- ③ 多数決によって得られた答え
- ④ 生き抜くための知恵

問5 空欄 b に当てはまる語句として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

4

- ① 法的規制
- ② 自主規制
- ③ 規制改革
- ④ 意識改革

問6 空欄 c に当てはまる語句として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

5

- ① 量的平等
- ② 情報格差
- ③ 質的公平
- ④ 公明正大

問7 傍線部ウ「『透明性』をより重視して」とあるが、筆者はどのような点に気を付けているか。最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

6

- ① 権力に対してチェックを行い、不正が行われていないかを確認すること
- ② 自分自身で現場に向かい、現地の声聞くこと
- ③ 誰の意見なのかをはっきりさせ、その根拠を明示すること
- ④ 取材対象からの影響を受けないように注意すること

問8 本文の趣旨として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

7

- ① マスコミも世間から評価される時代に合わせて視聴者のニーズに応じた報道をするべきである。
- ② マスコミの使命は権力と戦うことに加え、公平中立を目指すことである。
- ③ マスコミはネットよりも「透明性」が高く、常に中立的な存在であるべきだ。
- ④ マスコミは民主主義の発展に資するために、根拠に基づいた良質な報道を心がけるべきである。

問題二 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

現代の経済学や社会学について知ることも大切です。何かいいことをしたい、社会に役に立つことをしたいと思うときでも、あるいは職業的、専門的に社会の中で役割をほたしたいと思うときでも、単に善意や気合い、勢いだけでは効果的に何かを行うことはできません。社会、世の中のあり方、基本的な仕組みやメカニズムを知っていることが必要です。また心理学を現実社会の問題に応用するときにも、経済学や社会学の知識は欠かすことはできません。

経済学はごくやさしく言うならば、生産・販売者と消費者の意思決定に関する学問です。そして、それぞれが持っている限られた資源を使って、自分自身の満足を最大にする選択となる形で資源の交換を行うことによって、個人と組織、そして地域から国際社会までの社会のレベルでそれぞれ何が起るかを説明しようとしています。つまり、a に対する選択と満足に関する学問です。そして、経済活動とはモノやサービスがどれだけ取引され、消費されるかによって示されます。つまり経済活動を活発にするということは、商品やサービスを大量に効率的に生み出すことだけではなく、どれだけ人々がモノやサービスを取引し、消費したいと思うかという、心の働きでも決まるのです。心理学からみた極端な表現をすると、経済学は人間の行動や意思決定をすべて金銭価値で表現した心理学^アともいえるのです。

そして、経済学は経済活動だけではなく、広く社会的な行動も研究しています。たとえば、(中略) 小さな利己主義が社会的破滅をもたらす「コモンズの悲劇」や他者の利他的行為の成果をただで利用する「フリーライダー」はもともとは経済学で扱われてきた概念です。また、金銭的な取引が行われる場面を経済学では市場/marketといいますが、市場活動が他者に不利益を与えることである外部不経済(あるいは負の外部性)、たとえば公害や高層建築による景観被害に対する税や処理費用負担義務の導入や、自然保護のような経済活動とは一見関係のなさそうな活動を市場の活動に組み込む可能性、つまり自然保護地域への入場料や入山料を受益者に負担させる方法などの研究も近年の経済学は行っています。つまり、経済学はその行為や活動が経済活動に含まれるかどうかということを含めた市場性という視点からも、社会的な場面での人間の行動について問題の解決に向けた研究を行っており、社会問題や環境問題を扱う心理学と親しい接点を持っているのです。

社会学とは複数の人間の活動の総体である社会を一つのまとまりとして研究対象にし、社会現象や構造、あるいは機能のメカニズムの解明をめざす学問です。現実社会の問題を考えると、社会学の知識、あるいは広く社会というものに関する基本的な理解と知識が必要なのはすぐに理解できると思います。経済学の知識と同じように、社会学の知識も社会問題や環境問題を扱う心理学には欠かせないものです。

とくに現代社会は大きな変化の時期にあります。すでに何度か述べたように地球環境問題への対応が緊急の課題になっていることもそうなのですが、もう一つは労働のケイタイ¹が変わりつつあることです。その理由のいくつかはグローバル経済化が進んだこと²と生産と消費構造が変化したことで、これまでの平均的な働き方であったシウシンコ²ヨウの、つまり一生同じ会社に勤めるサラリーマンが形成する中流層が失われつつあり

ます。つまり、会社や組織に所属することで人生を保障してもらおうという生き方ができなくなりつつあります。それは長年一定以上の収入を安定して受け取る層がなくなることもありますが、それに基づいている、年金に代表される公的な社会保障もあてにならなくなるといってもあります。

b、明治維新以降ずっと続いてきた、親戚などの血縁関係者や農村、漁村などの集落を離れ、会社や国に人生を保障してもらい、核家族つまり親と独立前の子供だけで暮らすというライフスタイルが成立しなくなってきました。会社や国から保障や援助を受けられず、親戚や友人知人とのつながりもなくなってしまう状態を社会的排除の状態といいます。この社会的排除の状態にならないために、会社や国に頼りきらない人のつながりが必要になります。人間関係の³カンシヨウ性が強い血縁の集団や集落などを好まない人にとっては、新しい形の人間関係が求められるでしょう。こうした人間関係はソーシャルキャピタルとよばれることがあります。ソーシャルキャピタルとはゴジヨ⁴の関係にある人間関係のことで、それぞれの人が持っている人間関係のことであり、またある集団の中に存在する人間関係の質と量全体を示すこともあります。ソーシャルキャピタルは、仕事を紹介する、専門的な知識や技術を提供するということから、気にかけてくれる、立ち話を楽しむ、まで、さまざまなレベルで利益をもたらしてくれます。そして、ソーシャルキャピタルの違いが生活の満足度や経済状態、あるいは健康状態にまで影響を与えていることが明らかにされています。

ソーシャルキャピタルを生み出すためには何らかの人間関係、集団が必要です。近年、そうした視点からのコミュニティに対する関心が高まっています。ご近所のような地域によるコミュニティ、あるいはボランティアのような何かの目的を持って人が集まるコミュニティなど、いろいろな形の非公式な組織であるコミュニティの価値が認められ、その機能や成立過程に関する研究が行われています。そうした研究は**c**の研究ということになりますので、心理学の対象でもあり、また心理学に対する期待は大きいものがあります。そして、そうした研究をするときに、現代社会の変化、その理由やメカニズムを知っておくことが、適切に研究の目的を決めたり、研究結果の解釈をするために必要になります。また、それは心理学の研究だけではありません。ある社会問題について考えたり、あるいは解決をするためには、その問題の真の原因や関係する要素、背景などを理解しておくことが必要なのです。

心理学を学び、利用するためにも、またひろく世の中の問題について考え、社会で何かを行っていくためにも、**d**を理解しておくことが必要ですし、そのためにはまず経済学と社会学について学ぶ必要があります。経済学や社会学を学ぶには、とくに経済学に関しては基本的な考え方を一通り理解しておくほうがいいと思いますので、大学であれば授業を受けるのはいいのではないかと思います。心理学を専攻する学生でも選択できる科目に経済学や社会学があることが多いと思います。またその大学の学生ではなくとも、聴講生など授業を受ける方法はいろいろあります。一通り基本的な考え方や基礎知識を身につけた後は、好きな本を読めばいいでしょう。⁵タイケイ的に学ぶというよりも、本をきっかけにして自分で考え、自分¹なりの理解を持つことのほうが大事だと思います。何らかの理解ができれば、そこに不足しているものもわかりますので、次に学ぶべきこともわかってきます。また、新しい知識に出会ったときに、自分¹なりの評

価ができますので、受け入れるか批判すべきかもわかってくるはずですが、そうして、少しずつ自分なりの世の中、社会に対する理解を作り上げていってください。そして、上に書いたことは私の世の中に対する理解ですが、こんなささやかな理解など、みなさんはどんどん乗り越えて行ってくれることを期待しています。

(羽生和紀『心理学を学ぶまえに読む本』)

問1 傍線部1～5のカタカナを漢字に直して、記述式解答欄に記入しなさい。

1 [F] 2 [G] 3 [H] 4 [I] 5 [J]

問2 空欄 [a] に当てはまる語句として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。
[8]

- ① 生産・販売者
- ② 限られた資源
- ③ 個人と組織、そして地域から国際社会
- ④ 金銭的な価値で表現できるモノやサービス

問3 傍線部ア「心理学ともいえる」と筆者が経済学について考えた理由として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。
[9]

- ① 金銭的に豊かになると心も豊かになるから。
- ② 人間は組織や地域、国際社会の中で生きているから。
- ③ 経済活動は人間の心の働きで決まるから。
- ④ 経済学は広く社会的な行動も研究しているから。

問4 空欄 [b] に当てはまる語として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。
[10]

- ① ところで
- ② したがって
- ③ ところが
- ④ なぜなら

問5 空欄 [c] に当てはまる語として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。
[11]

- ① 現代社会
- ② 人間関係
- ③ 心的機能
- ④ 社会環境

問6 空欄 [d] に当てはまる語句として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。
[12]

- ① コミュニティ
- ② 心理学の研究
- ③ ソーシャルキャピタル
- ④ 社会の基本的な仕組み

問7 傍線部イ「自分なりの理解を持つことのほうが大事」と筆者が述べている理由として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

13

- ① 自分なりの理解をしないと、いざというとき役立てることができないから。
- ② すべての物事を理解するのは難しく、自分なりの理解をするしかないから。
- ③ 何が不足しているかがわかり、次に何を学ぶかもわかってくるから。
- ④ 新しい知識に出会ったときに批判をせずにするようになるから。

問8 本文の主旨として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

14

- ① 心理学は、経済学や社会学など基礎的な学問の上に成り立っている。
- ② 心理学、経済学、社会学は、同じ人間の社会活動を、別の視点からとらえた学問である。
- ③ ソーシャルキャピタルとは、公的な社会保障や血縁関係に代わって、個人の社会生活を保障するためのものである。
- ④ 心理学を学ぶためには、社会の成り立ちや仕組みについての理解が不可欠である。

(以上)

